

子どもの視点からみた通学路環境の評価

名古屋工業大学	学生会員	藤本 尚子
名古屋工業大学	正会員	藤田 素弘
名古屋工業大学	正会員	鈴木 弘司

1. はじめに

現在、全国の小学校では自宅と学校を通うための道である通学路が定められており、子どもたちは登下校の際に各自決められた通学路を通ってくるよう学校から指導されている。よって子どもたちは通学路を何回も往復することで多くの時間をそこで過ごし成長していくことになるため、通学路は子どもにとって楽しく過ごせる場所であることが必要だと考えられている¹⁾。

このような背景から本研究では通学路環境の評価を子どもの視点から行い、通学路の評価を高くする要因を明らかにする。また子どもが考える理想の通学路環境について考察することを目的とする。

2. 調査の概要

本研究では名古屋市千種区の住宅街に位置する上野小学校の5年生87名(男子46名・女子41名)に(a)個人属性(b)生活状況(普段の遊び・習い事)(c)通学路の総合評価(とても好き, まあまあ好き, どちらでもない, あまり好きではない, まったく好きではない, の5段階評価)と環境評価(車の量 人の数 歩きやすさ 自然環境を5段階評価で, 音 生物 寄り道は自由記述で回答)(d)理想の通学路(絵や文章で自由回答)の4項目についてアンケート調査を行った。なお自宅場所については図1に示すように3地区の中から回答してもらった(地図上の丸は上野小学校)。地図上の()出来町通と()関田名古屋線は学区の中では特に交通量の多い道路である。

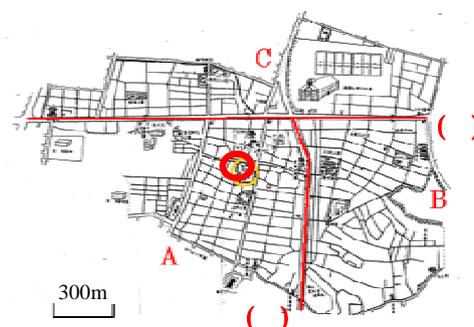


図1 上野小学校・学区図

3地区とも閑静な住宅街で、その他の特徴として地区Aは学校周辺にコミュニティゾーンが形成されていること、地区Bは図2に示す緑道(全長約800m)が通学路上にあること、地区Cに自宅がある生徒は学区内で最も交通量の多い()出来町通を越えなくてはならないことなどがあげられる。



図2 地区Bの緑道

3. 通学路の総合評価と環境評価

まず、通学路環境の評価が総合評価に与える影響を重回帰モデルで分析し考察する。

1) 通学路環境評価の性別比較

図3に男女別の から の質問項目に対する評価を示す。いずれの項目も男子の評価が女子よりも低く、特に 自然環境については大きな差がついた。このことから性別により各質問の評価に違いがあると考え、重回帰モデルは男女別のモデルで構築していく。

2) 重回帰分析の結果と考察

総合評価を目的変数、通学路環境評価を説明変数として重回帰モデルを構築する。以下に男女別のモデル式を示す。

キーワード：通学路環境、子どもの視点

連絡先 : 〒466-8555 愛知県名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 都市循環システム工学専攻
TEL 052-732-5492 E-mail fujimoto@keik1.ace.nitech.ac.jp

男子モデル : $y_m = \beta_1 x_1 + \beta_2 x_2 + \beta_3 x_3 + \beta_4 x_4 + \beta_5 x_5 + \beta_6 x_6 + \varepsilon_m$

女子モデル : $y_w = \beta_4 x_4 + \beta_5 x_5 + \beta_7 x_7 + \beta_8 x_8 + \beta_9 x_9 + \beta_{10} x_{10} + \varepsilon_w$

y_m : 男子総合評価 y_w : 女子総合評価 β_n : パラメータ ($n = 1, 2, 3, \dots$)

ε_m : 男子モデル定数項 ε_w : 女子モデル定数項

x_1 : 自宅場所ダミー (地区 C : 1) x_2 : 習い事 x_3 : 自然環境 x_4 : 音 (回答数)

x_5 : 生物 (回答数) x_6 : 寄り道ダミー (寄り道する : 1)

x_7 : 登校 ダミー (登校人数 1~5人 : 1) x_8 : 登校 ダミー (登校人数 11人以上 : 1)

x_9 : 人の数 x_{10} : 歩きやすさ

表 1, 表 2 に男女それぞれのパラメータ推定結果を示す。表 1 より, 男子にとって総合評価に最も深く関係している項目は「自然環境」であり自然環境が豊かだと感じるほど「好き」という総合評価につながるということがわかった。また表 2 より, 女子にとっては道の「歩きやすさ」が最も影響を与える項目であり, 通学路が歩きやすい道だと思えばほど高い総合評価につながっていることがわかった。また「生物」に着目すると男女逆の結果となっており, これは通学路で見られるような昆虫が, 男子にとっては興味を引く対象なのに対し, 女子にとっては怖い・嫌いといった否定的なものに感じられたことが原因と考えられる。

4. 理想の通学路

次に絵や文章で自由回答してもらった「理想の通学路」について集計分析する。集計に関して, 絵の回答についてはその要素をすべて挙げて行った。図 4 に回答を項目別に分類し集計した結果を示す。

図 4 より, 子どもが「理想の通学路」として最も多くあげた項目が「自然に関するもの」であり, その内容としては「木・花・緑がたくさんある」, 「虫や動物がたくさん」といった回答が多かった。この結果から子どもは自然豊かな環境の中で通学したいと考えていることが明らかになった。このことは, 現在の通学路環境では「自然が貧しい」という子どもの気持ちが結果に現れたとも考えられる。次に回答が多かった「安全な道」については, 交通安全・防犯・防災の面からみて「安全な」と回答した結果をまとめたもので, 「まずは安心して通学したい」といった気持ちが反映されたと考えられる。

5. まとめ

以上より男子にとっては自然環境が豊かな通学路であるほど, 女子にとっては歩きやすい通学路であるほど総合評価が高くなるということがわかった。また, 「理想の通学路」の結果から子どもにとって自然豊かな環境が必要であるということが明らかになった。

今後, アンケートを様々な地区で行い本研究の結果が他地区においても当てはまるか検証する。また安全な通学路であるうえに, 通学路の「自然環境」について具体的な整備を検討していく。

6. 参考文献

1) 仙田満 著 : 子どもとあそび - 環境建築家の眼 -, pp.51 - 52, 2006 年, 岩波新書

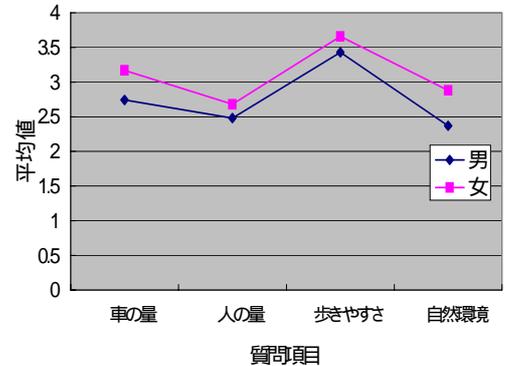


図 3 通学路環境評価の男女比較

表 1 男子・パラメータ推定結果

説明変数	パラメータ	t値	標準化係数
自宅場所ダミー (地区C)	-0.794	-1.932	-0.239
習い事	-0.083	-1.015	-0.127
自然環境	0.582	4.488	0.550
音	-0.138	-1.234	-0.152
生物	0.093	1.499	0.188
寄り道	-0.423	-1.393	-0.169
定数項	2.019	4.332	
サンプル数	46		
有意確率	0.000		
重相関係数	0.669		

表 2 女子・パラメータ推定結果

説明変数	パラメータ	t値	標準化係数
登校 ダミー	1.009	2.286	0.324
登校 ダミー	-0.192	-2.532	-0.342
人の数	0.423	2.147	0.287
歩きやすさ	0.557	3.901	0.542
音	0.271	1.805	0.267
生物	-0.172	-2.206	-0.340
定数項	0.070	0.077	
サンプル数	41		
有意確率	0.002		
重相関係数	0.666		

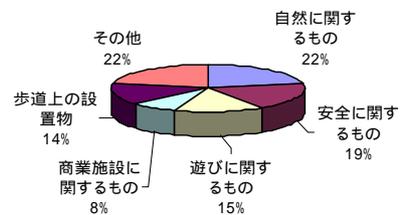


図 4 「理想の通学路」の集計 (サンプル : 87)